



万一に備えることの大切さ

校長 石田 和男

昨年同様、今年の夏も気温35度を超える日（夜も熱帯夜）が続く猛暑の夏となりました。また、線状降水帯やゲリラ雷雨による激しい雨と雷により九州・北陸・東北地方が洪水や土砂崩れ等により甚大な被害を受け、ロシアのカムチャツカ半島付近を起源とする地震により日本にも津波が到達し、三陸沿岸の漁業施設が被害を受けました。このように、自然災害の脅威を感じる夏でもありました。本校でも、局地的豪雨により8月18日に正門付近からサンロードにかけて冠水するなどの被害がありました。これまでになかった天候の急変や世界的な気候変動が毎年のように発生しており、防災について改めて考えさせられる夏となりました。

夏季休業期間を通して、三中生は大きな事故等の連絡はなく、有意義な長期休業を過ごせたようです。本日より2学期が始まりますが、3年生は進路に向け自分の将来を見据える学期に、2年生は学校の中心として活躍する学期に、1年生はよりよい学校の礎を築く学期となるよう、気持ちを切り替え、2学期の良いスタートを切ってくれることを期待しています。

さて、今後は一人一人の防災意識をこれまで以上に高める必要があると考えます。学校では9月1日の「防災の日」、9日の「救急の日」を機会として、毎年2学期当初（本年度は9月2日）に避難訓練を行っています。安全、安心に2学期を過ごすため、生徒、職員が一緒に「自分の身（命）は自分で守る」ための行動について確認しながら、実施しています。本年度は、不審者対応の避難訓練を実施予定です。9月1日の防災の日には、ぜひ、ご家庭でも防災、減災、避難場所、非常時の持ち出し品等について話していただきたいです。宜しくお願ひします。

防災に関しては「備えあれば憂いなし」という有名な言葉がありますが、この言葉は表題にある「居安思危（こあんしき）」という中国の故事の一部を抜粋した言葉だそうです。原文は「居安思危則有備（しそくゆうび） 有備無患（ゆうびむかん）」と表し、日本語訳は「安（やす）きに居（あ）りて危（あや）うきを思う 思えば則（すなわ）ち備えあり 備えあれば患（うらみ）い無し」となります。要約すると「災害に備えるということは、普段の何もないときにこそ、危険を想定して対応していくことである。そうすれば、危機に備えることができ、実際に危機が発生しても対応することができるので苦しむことはない」となります。普段から危機に備えることは、決して簡単なことではないかもしれません、「備える」ことは昔から防災の重要な要素であり、今でも大切なことです。現代、行われている危機管理は、事前にトラブルを回避し、被害を最小限におさえるための策を講じるためのリスクマネジメント、トラブルが発生したときを想定して被害を最小限におさえるための策を講じておくクラシスコントロールがありますが、まさに居安思危の考え方と同様です。防災に関していえば、持ち出し袋や避難経路などの事前の備えと避難訓練になるのでしょうか。

保護者、地域の皆様、本日より2学期が始まりました。2学期は学習、運動、学校行事（合唱祭や体育祭）が充実する学期です。本校職員一同、安全安心を基盤として、生徒のための教育活動に全力で取り組んでまいります。今学期も変わらぬご理解、ご支援を賜りますようお願ひ申し上げます。